

広島県立広島中学校

入試科目	適性検査1	適性検査2
試験時間	50分	45分
配点	110点	100点

◎適性検査1…文章・資料をもとに、課題を発見し解決する過程を多様な方法で表現する。

◎適性検査2…テーマ等に基づき、思ったことや考えたこと等を文章で表現する

◎合格者は適性検査、志望理由書及び調査書を総合的に判断して決定。

適性検査1

- 1 インゲンマメの発芽した種子を使って、植物の呼吸を確かめる問題
- 2 体力テストにおけるデータ処理と条件整理の問題
- 3 条件にあうよう回路を作図し、光る豆電球を記入する問題
- 4 A駅からH駅まで決められた時間と予算内で行けるよう乗り物を選択する問題
- 5 同じ量の水に最も多く溶けているミョウバン水溶液を見分ける問題
- 6 本棚に本と時計をきれいに並べて入れる条件整理の問題

適性検査の出題は資料等をもとに、課題を発見し解決する過程を多様な方法で表現させるので、基本的に解答は記述式になります。適性1では算数や理科能力要素が色濃く、基礎学力を鍛えておくことは必須です。

1 課題解決のために行う理科実験について、過程や結果を説明する問題です。酸素や二酸化炭素の増減を調べるので、気体検知管を用いる方法かまたは石灰水やろうそくの炎を用いる方法がすぐに思い浮かべられると取り掛かりやすかった問題です。6年の教科書で動植物の呼吸や気体検知管の使い方が取り上げられています。結果

を比較するため、呼吸が行われていない場合についての説明があればより高得点が望めるものと思われます。

2 データ処理の問題です。4人の体力テストの記録から半年後の目標とのばす記録を単位も含めて答えます。4種目から選べますが4人が同じ得点だけ増えるようにする条件があるので、のばしやすい種目を選べば解きやすい問題でした。

3 一見複雑ですが、豆電球と豆電球をつながない条件、つなぎ方が6通りで光り方も6通りとなることから配線は自ずと決まってきました。闇雲に行うとすぐには見つからないため受検生によって差が出

やすい問題です。解いてみて時間がかかりそうと感じたのであれば潔く後回しにした方がよかった問題といえるでしょう。

④ 経路選択の問題です。A駅からH駅まで地下鉄、電車、路面電車、バスの4つの乗り物の中から複数を選択し、乗り継ぎ時間も含め時間内、予算内になる組み合わせを考えます。解答は複数ありますが時間や予算が超えてしまう選び方もあるので計算ミスに注意したい問題でした。

⑤ 課題解決のために行う理科実験について、過程や結果を説明する問題です。物のとけ方、とり出し方、ミョウバンの性質は5年生の教科書で扱われています。同じ量の水にミョウバンの量を変えてとかしてあるので、水溶液を冷やす場合と熱して蒸発させる場合のどちらかの説明ができていればよかったです。実験の道具や手順は教科書に書いてあるとおりのとても素直な問題でした。

⑥ 条件整理と簡単な計算の解きやすい問題です。本の種類で固めることができないことに違和感があったかもしれません。この問題も複数の組み合わせが考えられる問題でした。解き直しをしてミスなく仕上げたい問題です。

県立広島中学校の適性検査問題では比較、分類、関連づけ、資料や条件の読み取り等を適切に行う力、分析力・思考力・表現力が求

められ、素早く答案を作り上げなければなりません。もちろん、誤字脱字は減点されます。

今年も昨年と同様に簡単な設問でも解答が複数考えられる問題が多く見られました。自身の判断が求められる問題でも慌てず自分の考えに自信を持って、与えられた条件をもれなく読み取り、自分で答えを決め、なぜそう考えたのか、その答えまでどのように考えたのか書き出す力が求められました。

比較的書きやすい問題が多かったため、一つ一つに時間をかけすぎず、全ての問題に対して解答が書けていることや、ミスなく記述できていたかどうかも重要です。

課題解決の問題として理科の実験記述問題が今年は2題出題されましたが教科書レベルの出題です。なぜその実験を行うのか、結果から何が考えられるのか、目的を意識しながら学んでおく必要があります。

普段から読み書きや計算の能力を高め、技能を磨き、素早く判断し、要点を押さえ、短く、順序よく表現する能力を鍛えておくことが重要です。また、知識問題にかたよらない適性検査の特質上、当日の出来が大きく合否を左右しますから、模試などを積極的に利用して時間配分に慣れるとともに、精神力も鍛えておくことが必要でしょう。

適性検査 2

① 学級委員会による、環境を守る取り組みを提案する問題

② 江戸幕府の大名支配の特色についてまとめる問題

③ 1. 「ホンモノの日本語」について書かれた文章を用いた国語的記述問題

2. 「生活をおもしろいものにしてきている」ことについて、筆者と自分の考えをまとめる作文問題

2013年（平成25年）以降、出題構成が落ち着いてきている県立広島中の適性検査2です。基本構成は以下のようになっています。

- ① 資料データを用いた発表原稿を作る（200字以内）
- ② 社会科資料をもとにテーマを説明する（9行程度）
- ③ 1. 四科型国語の記述問題に答える（2行程度）
2. テーマに関する自分の考えを述べる（180字～200字以内）

基本方針の大きな変更がない限り、今後もこのスタイルを踏襲するものと予想されます。

2019年度の適性検査は、次のような出題内容となっています。

- ① 6年生に対して行った省エネルギーの取組状況や活動に関するアンケート資料をもとに、学級委員が学校内でどのような活動をするかを提案する原稿を作成する問題です。資料データから、特徴的な傾向やどのデータを組み合わせると書きやすいかを見いだす目を養っておきましょう。

昨年度までは、目標やその理由が問われていましたが、今年度は原稿のみ（200字以内、以前は150字以内）が問われています。

- ② 4年連続で歴史分野から出題されました。内容は、江戸幕府の大名支配についてです。江戸時代の藩の支出割合及び江戸幕府がだしたきまりという2つの資料から、江戸幕府の大名支配の特色をまとめる問題です。身につけた社会の基礎知識を掘り起こしながらま

とめる必要があります。こういった歴史タイプの出題の際には、「歴史の大きな流れと関連づけて書きなさい」という条件がつけられる点を見落とさないようにしましょう。なお、どの分野から出題されるかは、年度により異なります。2013年からの出題は、歴史→地理→地理→歴史→歴史→歴史+公民→歴史(2019年)となっています。来年度も歴史を中心とした対策が必要となるでしょう。

- ③ 与えられた1000字程度の文章を読んで答える問題です。2019年度は、言語学者であった金田一春彦氏のエッセイ「ホンモノの日本語」の一部が出題されました。いわゆる四科型国語の記述問題を2行で書ききった上で、与えられたテーマと4つの条件にあった作文が求められます。比較的書きやすいテーマが多いですが、4つの条件すべてを満たすことができるよう練習を積み重ねておきましょう。

近年、出題の基本スタイルが確立し、以前と比べれば対策も立てやすくなっています。合格水準の突破には、【データを読み取ること／自分の考えをまとめること／文章の組み立てを考えること】、の3点を大切に、書き慣れる対策が不可欠です。さらに、時間内に仕上げることもできるよう、ペース配分の練習も重ねておきましょう。